

平成22年度第2回山形県立博物館協議会 記録

日時 平成23年2月10日（木）午後1時30分～3時30分
場所 山形県立博物館 講堂

1 開 会

2 あいさつ

- (1) 山形県教育庁文化財保護推進課長
- (2) 山形県立博物館長

3 委員紹介

4 会長あいさつ

5 報告

- (1) 平成22年度主要事業の進捗状況について
- (2) 資料のデータベース化の現状と見通しについて
- (3) 休館日（月曜日）が祝日のときの対応について
- (4) その他

（事務局より説明）

〈質疑応答〉

○野口委員

収蔵資料のデータベース化が進んでいるということだが、事業が進行しているなかで新たな発見などはあったのか、また、データベース化によって今後どのような情報発信ができるのか、その見通しについて伺いたい。

○事務局

たとえば、本館に収蔵されている植物標本には、明治時代に採取されたものがあり、他の博物館などにはない貴重なものだとわかった。また、「蘭の図譜」（池田成功コレクション）などはデータベースに載せることにより、学術的な観点だけでなく、ボタニカルアート的な鑑賞という観点からの利用も考えられ、データベースの活用は多岐にわたると思われる。資料のデータベース化とともに

全般的な資料の見直しを行っており、終了次第、新たな登録番号を付与する予定である。

○安部委員

4月に開催される「はやぶさ展」について、山形市や山形大学との連携を図るということだが、民間団体との連携も考えてもらいたい。

○丸山会長

「はやぶさ展」は一過性のイベントとして開催するのではなく、「やまがた星めぐりサイエンスフェスティバル」という科学振興プロジェクトの一環としての位置づけをしているということだが、その中で県としての関りはどうなっているのか。

○事務局

「はやぶさ展」関連では、山形市から、本館及び山形大学に協力を求める呼びかけもあり、本館(県)と山形大学に民間団体の参加も得て組織した実行委員会において、その前後の期間を通じて関連する科学イベントを展開すべく計画を進めており、本館(県)も人的な協力、イベントの実施、会場の提供など積極的に参加していくことにしている。

○野口委員

「はやぶさ展」については、学校側へ広報を十分に行なってもらいたい。

○竹田委員

「はやぶさ展」は一般の期待が大きい。学校側については、早めの対応をお願いしたい。

6 協議事項

- (1) 平成23年度の運営方針・事業計画について
- (2) その他

(事務局より説明)

〈質疑応答〉

○竹田委員

高校生を対象とした「学芸員1日体験講座」は、2日間を通じて40名の参加があった。自然系と人文系という2つの分野で開催されるのが好評で、県高校文化連盟の事業としてはたいへん人気のあるプログラムである。ぜひ来年度も引

き続きよろしくお願ひしたい。

○酒井委員

本館が来年度これだけの事業を実施するという事はすばらしいことであり、マスコミ等にもっと活動をアピールしてもらいたい。今日配付された「博物館ニュース」は館内で印刷されたものであるようだが、きちんと印刷して県外などにも **PR** してほしいものだ。特に子どもたちにはぜひ来館してほしいが、山形市の教育委員会などとは連携があるのか。

○事務局

山形市内のほとんどの小学校は来館している。ホームページには来館した学校を紹介しているが、市町村ごとの来館校などをさらに分析をして効果的な **PR** につとめたい。毎年、「催物案内」を作成して配付しているが、年度当初に学校側には十分行き渡らないことがあったので改善したい。少なくとも年度初めの校長会の会合などには配付できるようにしたい。

今年度の利用状況をみると分館の団体見学者数が減っている。分館には大型バスを駐車するスペースがなく苦慮している。

○安達委員

平成 **23** 年度の重点事業に挙げられている **3** 点について説明を聞いた。来年度の活動に期待しているが、館としては忙しくなると思うが、どのような方針で進めるのか。

○事務局

「県立博物館 **40** 周年記念事業の展開」については、記念展の開催をはじめとして、全体の運営を工夫して特色を出すようにしていきたい。

「収蔵資料のデータベース化の推進と博物館ホームページを通じた公開」については、同定できない資料が最後に残るためにデータベース化できないものがどうしてもでてくるが、できるだけ **100%** に近づけたい。

「日博協東北支部及び東北地区博物館協会の運営」については、今年度 **1** 年目は支障なく運営できたので、その経験を生かして **2** 年目の来年度もよりスムーズに運営したい。

○安部委員

40 周年記念事業が充実して行われるように今後も努力してほしい。

○丸山会長

企画展などマスコミはニュース性のあるものは取材する。博物館の事業展開については、事前にこちら側から打って出るような積極的な広報活動をしてほしい。例えば、開設からの歩みを県の広報番組を活用して放送してもらってはどうか。

○野口委員

入館者数を増やすのには子どもたちへの **PR** が大事だ。夏休み期間など、学童保育所にも働きかけてはどうか。

展示会にあたっては展示物と県民の暮らしを結びつけるような企画がほしい。来年度開催する「昆虫展」では、昆虫写真家の作品をあわせて展示したり、**NHK** の **BS** で放送していた里山の自然の映像を流したりするなど、昆虫が生きている山形の自然を紹介するような工夫があってもよいと思う。

○竹田委員

教育資料館の入館者増については、山形北高校を訪れるお客様にも隣の教育資料館のことを紹介するなど協力したい。

○丸山会長

この度「移動地質標本館」を出展する「独立行政法人産業技術研究所地質標本館」はジオパークの取りまとめを行なっている機関であるが、蔵王のジオパーク構想について、県としての働きかけなどはあるのか。

○事務局

現在のところはそのような情報は聞いていない。

7 その他

特になし

8 閉 会

以上